

研究部通信



第 2 号

平成30年

6月25日

学部研究がスタートしました

全体テーマ「社会とのつながりを大切にした教育活動の充実」のもと、各学部のテーマが決まりました。

小学部	思いを伝え合い、人とつながる授業づくり	生単
中学部	人とかかわりの中で自ら考え、表現し、思いをつなげる生活単元学習	生単
高等部	卒業後に必要となる力を意識した、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり	作業 生単 等
訪問学級	人とかかわりの中で生活に生きる力を育む授業づくり～日常生活の指導の充実による体と心の変容～	日生

研究3年目となる今年度は、上記の表からも分かるように、どの学部も「各教科等を合わせた指導」を取り上げることとなりました。そこで、学部合同の研修という初めての企画も進行中です。6月14日の小・中合同研では、倉田利江子先生から「生活単元学習の意義と指導の基本」というテーマでお話をいただき、単元設定の基本的な考え方やポイント等について分かりやすく解説いただきました。特に、ある単元において、重複障がい学級の児童同士が遊んでいる写真を見せていただき、音声言語を獲得していなくとも、相互の関わり合いの中には確かに「対話」が存在しているのではないかというお話を伺ったことは、今後、「主体的・対話的で深い学び」を考えていく上でとても参考になるだろうと感じました。小・中合同研は6月28日にも開催予定です。

本校における「主体的・対話的で深い学び」の捉え方（定義）

先月の理論研では、特総研の大崎博史先生から「知的障がいのある子どもの『主体的・対話的で深い学び』をめざした授業づくり」というテーマで講義を受けました。スカイプの調子が思うようにいかず、お聞き苦しい点が多々ありましたことをお詫び申し上げます。今年度の学校重点目標の一つに「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善の推進が挙げられています。今後、授業研究を進めていく上で、各学部或いは各教員の捉え方がまちまちにならないよう、学校として統一した定義に基づいて進めていきたいと考えます。そこで、現時点においては、大崎先生の説明資料にあった以下の記述を定義として押さえ、統一見解として確認しておきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

- 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考え方を形成して表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

告知①「訪問学級授業研究会」

平成30年6月28日（木）10：00～12：20
授業公開：日生「気持ちよく一日を始めよう」

◎佐々木、戸田、宮谷、横山、田中、鈴木看護師

講師：県立皆生養護学校 毛利英子先生

（自立活動エキスパート教員）

授業研究会後、毛利先生の講義があります。

告知② 新刊発売。白兔の実践も掲載。

